

活動報告書

千葉工業大学 工学部 未来ロボティクス学科
大川研究室 1326035 河合 修平

提出日 2016/03/16

1 当初の計画

- 研究
 - － 音響学会発表

2 活動

- 研究

今週は日本音響学会主催の2016年春季研究発表会においてポスター発表、またそれに対する準備(ポスター制作等)をおこなった。”残響可変装置とロボティクスの組み合わせによる小規模音場へのアプローチ”という題で様々な音響装置をロボティクスを用いて使用することで、コンサートホールや講演会などといった目的のために作られた部屋ではなく、家の自室のような空間でも目的に適した残響時間や明度にするといった研究である。今回、ポスター発表の中で受けた質問のサーベイをおこなっているなのでその報告をし、活動報告の代わりとする。
- ドローンは使わないのか

ドローンを使用するときは最大積載量と最大稼働時間の点で問題がある。長音パネルや音響反射板といった音響装置は最適配置の場所に置いておく必要があるが、最大稼働時間が長くて10分程度だと、現状使用可能ではない。

- 駆動中のモータの音へは対処しないのか

最適配置までの移動をおこなった後はあまり音響装置を動かす必要がないため、その点は重く考えていない。

3 予定

3.1 研究

- 研究決定のため論文の読み直し